

# 熊本地域医療センターだより

院長 杉田裕樹

令和5年(2023年)3月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

〒860-0811 熊本市中央区本荘5丁目16番10号

2023 3 通算214号  
月号

## 熊本地域医療センター 理念

かかってよかった。  
紹介してよかった。  
働いてよかった。  
そんな病院をめざします。

## contents

「2022年度緩和ケアに関する研修会(第117回熊本緩和ケアカンファレンス)」のご報告…	P 1
わかりやすい 部門紹介 ～5階南病棟～	P 2
ステップアップ研修	P 2
これで最後にしたい! コロナ禍における年末年始の外来業務報告	P 3
ランナーズクラブのコロナ禍での活動	P 3
医療安全文化調査を実施しました	P 4

## 「2022年度緩和ケアに関する研修会 (第117回熊本緩和ケアカンファレンス)」のご報告

緩和ケア病棟師長 <sup>くろき</sup> 黒木 <sup>ようこ</sup> 葉子



2022年1月26日(金)18時30分からZOOM形式で緩和ケアに関する研修会を開催しました。

今回は、「全人的苦痛がある中で患者の希望を実現出来た事例～AYA世代の患者との関わりで感じたジレンマを通して学んだ事

～」と題し、AYA世代のがん終末期患者さんの看護について振り返り、緩和ケア病棟の副島里紗看護師が事例発表しました。当日参加可能としていたこともあり、院内外から合わせて90名近くの方にご参加頂きました。

全人的苦痛を抱えながらも叶えたい希望を持ち続けたA氏を支える中、看護師が感じていたジレンマや葛藤について深堀をしていきました。A氏の叶えたい希望は「親友の結婚式のために、友人たちとサプライズ動画や正装でスピーチ動画を完成させたい」というものでした。

当センターの緩和ケア病棟では、壮年期～老年期の患者さんが過半数を占め、AYA世代の患者さんの入院数は少なく年間で1～2名ほどです。そのような中、20代の希少がん患者さんを受け入れる事になり、入院当初は看護師の間でも緊張感が漂っていたように思います。しかし、同世代の看護師たちは音楽や動画などの共通の話題を足がかりに、思いや考えを引き出し、A氏やご家族の苦悩を支えていました。A氏が叶えたいと考えていた上記の希望も、身体的にはかなり辛かったはずですが、A氏の強い思いが看護師にとっても原動力となり無事に成功させる事が出来ました。

質疑応答では、他施設の方々との活発な意見交換は行えませんでした。アンケートでは「自身と患者は同世代であり、自分が余命宣告をされたらどうしただろうか、と考えさせられた」「自分よりも先に見送らなければならない親の気持ちに寄り添い、対応するのはとても大変だったと思う。しかし、患者がやりたい事をできたことは親にとって救いだったのでは」「日頃知れない緩和ケア病棟での看護を知れて刺激になりました」などのご意見を頂きました。

AYA世代のがん患者さんへの理解や希少がんへの知識もちろん必要ですが、まずは1人の人として関わる事。その中で生活背景を知り、その方が大切にしている事やニーズをキャッチしていく。そこから信頼関係が構築され、今回のように患者・看護師間の相互関係の中においてA氏の希望が実現出来たのではないかと考えます。看護としては基本的な事ではありますが、改めて大切な視点であると実感しました。

しかし、看護師も人であり患者さんが抱える苦痛が大きいほど看護師も悩み、苦しみます。看護師が感じるジレンマや葛藤に関して、全てにおいて答えがある訳ではありませんが、まずはチーム内で吐き出し共有する場が必要であると再認識させられました。

今回のように1人の患者さんの看護を振り返る中で、考えた事や感じた事を複数名で自由に語る場を設ける事は、看護師1人1人の看護観や死生観のようなものを育むきっかけになるのではないかと感じております。今後も、患者さんやご家族にとって、安全で安心して療養できる場であるよう、看護の質向上を目指して参ります。

## わかりやすい 部門紹介

### ～5階南病棟～

うえむら みほ  
本館5階南病棟師長 上村 美穂



本館5階南病棟は、熊本地域医療センターの中にある地域包括病棟です。院内では回復期病棟とも呼ばれ、ご紹介いただいた患者さんや、当院でのフォロー中の方々など、診療科を問わず、急性期病棟での治療を終え自宅や地域へ戻るための療養期間の患者さん方を受け

入れています。また、慢性期の患者さんや介護的課題のある患者さんにおいては、療養やリハビリを行いながら、ご本人やご家族の意向を確認し、今後の生活の選択に携わっています。

病床管理においては、毎日急性期病棟の管理者や医事課と相談し、退院調整担当のMSWや看護師らと協議しながら、より良い病床利用ができるよう努めています。退院支援については、患者さんの病状管理と共に、生活支援や活動機能の維持回復に努めながら、在宅復帰率平均85%で推移しております。今回は、5階南病棟が行っている取り組みについてご紹介させていただきます。

まず一つ目は、急性期病棟からの医学管理を、患者さんや支援者が管理できるよう引き続き支援しています。当院は消化器の手術件数も多く、一時的なものも含めると、多くの人工肛門造設患者さんがいらっしゃいます。人工肛門の状態が安定するまでのケアや装具の決定、さらに患者さんができるだけご自分でケアできるように、院内の皮膚・排泄ケアCNと協働し支援にあたっています。ほかにも、インスリン治療の導入や在宅酸素導入・調整等、医療的処置を抱えながらの在宅移行

にOT、ST、PTらセラピストと協力し関わっています。

二つ目は、患者さんの生活の質を高められることを目指しています。高齢の患者さんが増え、誤嚥などで再入院を繰り返す患者さんが増えています。ご本人で十分な口腔ケアや排泄行動、清潔保持ができない方も多くいらっしゃいます。単に入院中の誤嚥や尿路感染を防ぐためだけではなく、安全に清潔に日常生活が少しでも行えるように、運動機能の維持向上や口腔内の環境の改善、身体を清潔に保つことに力を入れています。

三つ目は、患者さんの身体と共に、精神や心情に寄り添えるように努めていることです。高齢の方は入院治療の過程での適応が難しいことも多く、がん治療を繰り返されている方は、その進行により心身の変化が生活に影響を及ぼす場合も少なくありません。加えて近年のCOVID-19による面会や外出・外泊制限は、多くの患者さんの心理的支えになる方々の直接的な支援を受ける機会も制限することになりました。5階南病棟では認知症看護と緩和ケアの2名の認定看護師を配置し、認知症症状を示す患者さんの行動心理状態の緩和や予防、療養環境の調整、がん患者さんの苦痛症状の緩和や、抱える心身の課題などを院内の緩和ケアチームと協力しケアに当たり、患者さんの生活の質の向上を目指して日々の看護を実践しています。

5階南病棟では、一般病棟同様いつでも入院に応じることが出来るように備えています。今後も、病院理念の「かかってよかった、紹介してよかった、働いてよかった」を目指してまいりますので、患者さんのご入院などご相談いただければと思います。

## 第2回

### 熊本地域医療センター ステップアップ研修のお知らせ

## 脆弱な皮膚に対するスキンケア ～誰でもできるスキンケア～

講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 大内 和美

日時 / 2023年3月23日(木) 18:00～18:45

形式 / オンライン方式 (ZOOM)

対象者 / 医療機関・訪問看護ステーション・介護施設等に勤務する医療従事者の方

申し込み方法 / QRコード<sup>(※1)</sup>よりお申し込み下さい。入力されたメールアドレス宛に受付完了メールが届きます。

(申し込み後3日以内にメールが届かない場合は、担当者までお問い合わせください。)

※熊本地域医療センター ホームページからでも行えます。

申し込み期限 / 3月20日(月)まで

※研修開催3日前までに、ZOOMのIDとパスコードをメールでお知らせします。また、当日日程調整が難しい方は、担当者にご相談ください。

(※1) 申し込み QRコード



【問い合わせ先】熊本地域医療センター 看護部 浅井 栄

TEL : 096-363-3311 (代表) アドレス : nintei.ns@krmc.or.jp

## これで最後にしたい！コロナ禍における年末年始の外来業務報告

外来師長 <sup>たちばな</sup> 橘 <sup>きょうこ</sup> 恭子



令和4年度、休日夜間急患センター年末年始の業務報告をさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症の第8波の猛威が続く中、あらゆる事態を想定しながら年末年始体制の準備を進めて参りました。今年で3度目を迎えるコロナ禍の年末年始ですが、今年ほど従事するスタッフの成長と活躍を実感した年はありませんでした。ロビーの3密回避や、院内滞在時間の短縮を目的に導入した「発熱患者の予約システム」は、現場の業務量と医療の質の担保を判断しながら、実働する医師・看護師・事務職員の連携により効果的なものとなります。今年度は、より多くの受診者を受け入れることにベクトルを合わせ、三位一体となって984名（前年度比+125名）の受診者に対応いたしました。新型コロナウイルス感染症とインフルエンザのW感染が懸念されましたが、発熱患者さんの診療はこれまで同様に診療の場所を変えて対応し、大きなトラブルなく年末年始を終えることができました。内科・小児科のW診療時の役割分担（発熱対応を2時間毎に交代）は、動線の無理・無駄の削減に繋がり、ご協力いただいた出勤協力の先生方に高

評価を頂いております。また、2年ぶりに眼科診療も行いました。2年間の月日は長いもので、診療に必要な眼科用医療機器の点検や物品の準備は慎重に行いました。眼底鏡の老朽化により、途中ヒューズが飛ぶといったアクシデントに見舞われましたが、眼科の先生方のご協力とご理解のもとに、診療を継続することができました。

当院の病院理念「かかってよかった 紹介してよかった 働いてよかった」の実現に向け、年末年始も邁進いたしました。断らない病院を目指し、救急車の受け入れや、地域の先生方のご紹介にも柔軟に対応できたことは、かかってよかったのみならず、スタッフの働いてよかったの実現にも繋がっています。正直なところこれで最後にしたいコロナ禍の年末年始です。近くに新型コロナウイルスは5類感染症になるとも言われています。私たち熊本地域医療センターのスタッフは、やはり休日夜間急患センターにおける診療は、来院される全ての方のニーズにお応えできるものでありたいと考えます。一日も早く、平時の診療を提供したい。そう願いながら、次年度に向けた課題の整理を行っているところです。

最後ですが、ご出勤頂いた先生方、ご協力くださいました全ての皆様に、心より感謝申し上げます。

## ランナーズクラブのコロナ禍での活動

ランナーズクラブ <sup>ひだか</sup> 日高 <sup>しんご</sup> 真吾

ランナーズクラブでは、コロナに負けじと健康意識を高め日々活発的に生活が送れるよう、携帯アプリ「もっと健康！げんき！アップくまもと」を活用しています。

このアプリは熊本中枢都市圏事業として、各種健診の受診や歩く事でポイントが貯まり、協力店で特典が得られますので、気軽に楽しみながら健康づくりができます。日頃からエレベーターではなく、階段を使うだけでポイントを稼げます。

そして、このアプリの醍醐味は、チーム対抗戦が行える事です。11月に行われたイベントにわくわく医療センター（日頃からわくわくした生活を送ると言う意味です）というチーム名にて8名で参加しました。2週間の期間で合計歩数961,509歩、平均歩数120,189歩で300チーム中44位のゾロ目賞を見事、数歩の差で獲得しました。300チームの

中で44位と高順位につけた事は勿論、快挙ですが、ゾロ目賞を狙う為の駆け引きが何とも言えない面白さでした。景品では、お味噌汁、エコバッグや金券を獲得できました。

ウォーキングを始めたい方、少しでも運動に興味がある方はランナーズクラブに入りませんか？在籍のみでも色んな情報交換をグループLINEで共有できます。いつでも気軽に声を掛けて下さい。



# 医療安全文化調査を実施しました

医療安全推進部 セーフティマネージャー

しみず きよし  
清水 潔



医療安全文化とは聞き慣れない言葉かもしれませんが。厚生労働省では“医療における安全文化”の定義について「医療における安全文化とは、医療に従事するすべての職員が、患者の安全を最優先に考え、その実現を目指す態度や考え方及びそれを可能にする組織のあり方」と説明しています。国家的戦略として平成13年3月「患者の安全を守るための医療関係者の共同行動(PSA)」が提唱され、その活動は現在まで引き継がれています。この際、医療安全対策検討会にて「安全な医療を提供するための10の要点」の中で第一番目に挙げられたのが「安全文化」でした。医療事故の防止には安全文化の醸成が不可欠で、組織の安全文化の現状を測定・把握し、モニターし、対策・研修の効果を評価することが必要です。測定することができれば他施設とのベンチマーク、院内における職種や部署ごとの比較、改善点の明確化や経時の変化を追うことが可能になります。具体的な調査項目は組織的・継続的な改善や各部署内のチームワークなど部署レベルの7要素、仕事の引継ぎや患者の移動など病院全体としての3要素、出来事報告

の頻度など4つのアウトカム変数が測定されます。今回当院ではコロナ禍を挟み5年ぶり3回目の調査を実施しました。質問票は米国医療安全研究品質庁が開発し、93カ国で翻訳・使用されているもので、個人が特定されない無記名式かつ同じ職員ではない外部機関に集計を依頼するため安心して回答できます。働き方に関わらず院内で従事するすべての職員を対象とし、総配布数444部、総回収数414部、回収率は93%という院内実状を精度よく反映する信頼性の高い調査となりました。結果は熊本大学病院や済生会熊本病院なども含む全国196施設中35位という高い総合評価が示されました。ただし、これらを詳細に見ていくと測定領域別、職種別、部門別、などではばらつきがあることが分かります。ポジティブな側面もあればネガティブな側面も存在します。今回の調査の結果はさらに分析を進め、部署ごとに結果をフィードバックし対策案を提示できるよう取り組む予定です。ご関心のある医療機関がございましたらぜひ調査をされてみられることをお勧めします。追記として今回医療安全文化調査と同時に心理的安全性の調査も実施しましたのでこちらはまた別稿に委ねます。

の頻度など4つのアウトカム変数が測定されます。今回当院ではコロナ禍を挟み5年ぶり3回目の調査を実施しました。質問票は米国医療安全研究品質庁が開発し、93カ国で翻訳・使用されているもので、個人が特定されない無記名式かつ同じ職員ではない外部機関に集計を依頼するため安心して回答できます。働き方に関わらず院内で従事するすべての職員を対象とし、総配布数444部、総回収数414部、回収率は93%という院内実状を精度よく反映する信頼性の高い調査となりました。結果は熊本大学病院や済生会熊本病院なども含む全国196施設中35位という高い総合評価が示されました。ただし、これらを詳細に見ていくと測定領域別、職種別、部門別、などではばらつきがあることが分かります。ポジティブな側面もあればネガティブな側面も存在します。今回の調査の結果はさらに分析を進め、部署ごとに結果をフィードバックし対策案を提示できるよう取り組む予定です。ご関心のある医療機関がございましたらぜひ調査をされてみられることをお勧めします。追記として今回医療安全文化調査と同時に心理的安全性の調査も実施しましたのでこちらはまた別稿に委ねます。



## 熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時/2023年3月27日(月) 19:00~20:00

形式/ハイブリッド方式 オンライン参加 or 会場参加  
オンライン参加: ZOOM 会場参加: 2階多目的ルーム

申し込み方法/ [kumamotochiiki@gmail.com](mailto:kumamotochiiki@gmail.com) (※1) まで (※1) 申し込みアドレス  
メールにて「所属医療機関名」および「氏名」を記載し、お送りください。(後日、詳細な参加方法についてご案内いたします。)

※会場参加を希望される方は、事前にお申し込みください。  
人数制限によりご案内できない場合がございます。  
※予定が変更になる場合がありますのでご注意ください。



### ①症例報告

『喀痰から Legionella longbeachae が同定され、急性呼吸促進症候群を来した尿中レジオネラ抗原陽性レジオネラ肺炎の一例』

呼吸器内科 坂本 一比古 医師

### ②特別講演

『糖尿病最近の話題(アルゴリズムと新しいお薬)(仮)』  
CC76: 糖尿病

糖尿病代謝内科 笹原 誉之 医師

## 熊本地域医療センター

■医師へ直接紹介される方はこちら  
☎096-363-3311 (代表)

■何科に紹介するか迷っている場合はこちら  
※ベテラン看護師が対応いたします!

(平日9:00~17:00) ☎096-372-0600

■画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら(連携室)  
☎096-366-1323

編集後記

Y 春 spring は「突然飛び出す」って感じで「ワクワク」しますね。職場対抗戦の44位のゾロ目賞はチーム名「わくわく医療センター」で受賞しました。コロナ禍を経験し、新しいステージで活動を活発にしたいものですね。

K 男性職員から、我が家は、週1で3色丼です。実は、そばろとタマゴの2色ですけどねと。私も、夕食にマネをして2色で出したところ、子供達から「緑がない!」とかなりのブーイング。文句言われた腹いせに、翌日の朝食・お弁当・夕食は3色丼にしてやりました。

H あっという間に年度末となりました。もう少しで桜が咲く季節ですね。ここ数年は桜を見ていないので、今年は久しぶりに見に行こうと考えています。おすすめのスポンサーがあれば教えてください!